

ニッポン
ドクター和の

臨終回巻



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長。1995年に尼崎市で開業した長尾クリニックを65歳になる6月末で卒業。今後新たな形で医療に携わっていく。24日には神戸で「卒業ライブ」を決行。詳しくは長尾和宏オフィシャルサイトにて。

を迎えた2000年のこと。

突然決めたわけではなく、その数年前から「ボクの芸は20世紀で終わり。21世紀は新しい人生を歩いた。その後、平均寿命は文明の進化とともに伸びていきましたが50歳を超えたのは、戦後、1947年になってからのこと。高度成長期を経て男女共に80歳を超えたのは、2015年のことです。

われわれは今、医療や栄養、そして平和に恵まれて、1000年前の人の3倍近くも生きられるようになりました。

長生きたからこそ、人生をどこかで区切り、引き際自分で決めらる場面がやってきます。だけどこれがなかなか、さまざまシガラミや執着が生まれて、一筋縄ではいかないでじょう。その点、この人の引き際は、実に見事であったと記憶しています。

関西のレジェンドともいわれたタレントの上岡龍太郎さんが、芸能界を去ったのはデビュー40周年

こそ、第一の人生はより芳醇（ほうじゅん）なものであったと想像します。そして今年5月19日に大阪市内の病院で亡くなりました。享年81歳。死因は、肺がんと間質性肺炎との発表。死因が2つです。

そして今年5月19日に大阪市内の病院で亡くなりました。享年81歳。死因は、肺がんと間質性肺炎との発表。死因が2つです。

人剤などの肺がんの治療が間質性肺炎を悪化させてしまうリスクがあるので通常の肺がんよりも慎重な医療処置が求められます。

長男で映画監督の小林聖太郎氏によれば、昨年秋頃には積極的治療の術がなくとも本人も延命を求めていなかつたとのこと。それでも日本人男性の平均寿命まで生きられたのですから立派なものです。

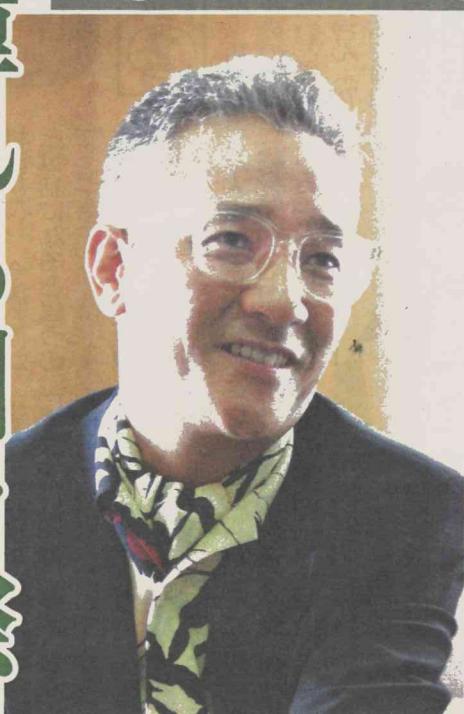
「とにかく矛盾の塊のようでした。父と子なんてそんなものかもしませんが、本心をつかがい知ることは死ぬまでついに叶わなかつたような気もします。弱みを見せす格好つけて口先三寸…運と縁に恵まれて勝ち逃げできた幸せな人生だったと思います」

この息子さんの言葉を聞き、大いに共感してしまいました。僕も、今月末に65歳になるのを機に長尾クリニックを引退します。町医者からファーテン医者へと姿を変え第二の人生を歩みます。だから今憧れるのは、上岡的引き際の美学。椿のように散りたいものです。

憧れる引き際の美学

(308)

元タレント 上岡龍太郎



長生きだからこそ、人生をどこかで区切り、引き際自分で決めらる場面がやってきます。だけどこれがなかなか、さまざまシガラミや執着が生まれて、一筋縄ではいかないでじょう。その点、この人の引き際は、実に見事であったと記憶しています。

関西のレジェンドともいわれたタレントの上岡龍太郎さんが、芸能界を去ったのはデビュー40周年